

日本からはなれて知った日本の心

アメリカ合衆国 グアム日本人学校 6年 綿部 大晟

7年前、ぼくは父の仕事の関係でグアムに引っこしてきました。

ぼくの学校選びについて母は、現地校に通わせるのがよいか、日本人学校に通うのがよいか、とてもなやんでいました。しかし父は、迷うことなく日本人学校を選たくしました。

ぼくの父は、中学卒業後、祖父の転勤でアメリカに8年間移住しました。高校、大学と現地校に通い、語学堪能の父が、なぜ日本人学校を選んだのか……。最近になってわかってきたような気がします。そう思うようになってきたのは去年の5年生のころです。

日本人学校は年に一度、交流学習といって現地校へ訪れ、たがいの文化を深く知り合う行事があります。

まず、ぼくの第一印象は、もったいないなあという気持ちでした。というのも、訪れた先の学校は、新しく建てられたピカピカの校舎ですが、ごみやおかしのカスなどが落ちていてもそれを気にしていなかったり、使い終わったイスなどもそのままにしていたことにおどろきました。

これは、とくにめずらしいことではありません。アメリカの学校では、生徒がそうじをする習慣がないのです。日本では当たり前だと思っていた、「使う前より使った後をきれいにする」という奉仕の精神は、とても大切なことだなあと改めて思いました。

食生活に関しても、自由におかしを持ちこんで食べていたり（先生も食べています）、現地の給食のようなランチは、ジャンキーなものでした。日本の食事は、栄養のバランスが考えられていて、いつもお弁当を作ってくれる母にとっても感謝しています。チャモロ人（グアムの現住民族）は、若いうちから糖による病になやまされていると聞きます。長寿大国の日本の源は、無形文化遺産に登録された「和食」にあるのだろうかあと思いました。

ほかにも日本のよいところは、たくさんあります。礼儀正しい、時間をきちんと守る、他人への思いやり、気配りがある、忍たい強い、真面目、などほかにもありますが、きっと父は日本語の学習の大切さに加え、このような日本人のよい心を、人格のできる大事な時期に身に付けさせたいと思ってくれたのではないかと思います。

しかしながら、アメリカにも日本が見習うべきよい点がたくさんあります。グアムに住んでいる人々は、とても温かく、すれちがう人みんなが笑顔でほほえみかけてくれます。ゆずり合いの精神も高く、車に乗っているときにも、すぐにみんな笑顔で先をゆずってくれます。日本ではなかなか見られない光景に、母は感動していました。

そんな、人も温かく、自然豊かなグアムもぼくは大好きです。海外に住むという貴重な経験を生かし、お互いの国のよい文化を伝えていく世界のパイプ役になっていけたらと思います。